

なきごえ

Vol. 400th Anniv.
400号記念号





画/松葉健

CONTENTS

NewFace アカカンガルー	坂本 全	②
“なきごえ”創刊400号に寄せて	井坂 進	③
動物園の雑誌の役割について	伊藤 政顕	④
みなさんの架け橋として	中川 道明	⑥
国内の動物園・水族館・昆虫館が発行している雑誌	竹田 正人	⑧
グラフZOO 思い出の動物たち	大野 尊信	⑩
ケンちゃんの好きやねん動物園	松葉 健	⑫
ZOO DIARY	竹田 正人	⑮



New Face

アカカンガルー

(フクロネズミ目・カンガルー科)

このアカカンガルーは、10月7日に神戸市立王子動物園から来園したもので、1997年生まれの子メスです。当園のオスにも気に入られているようで、近々赤ちゃんも期待できそうです。

なきごえ



天王寺動物園事務所長
井坂 進

“なきごえ”創刊400号に寄せて

大阪市天王寺動物園協会が発行する天王寺動物園の広報誌“なきごえ”が、昭和40年4月に創刊以来、この12月で400号を迎えます。

ひとくちに400号といっても、毎月毎月33年間にわたって、少ないスタッフでしかも多忙な業務のなかで、続けて発行されてこられたことに驚異し、敬意を表するところであります。

編集関係者の並々ならぬご苦労は無論ですが、永年にわたってご支援くださったスポンサーの方々にも、改めて心からお礼申し上げます。

また、誌名の“なきごえ”の由来をお聞きますと、妙に感心し、納得させられます。

ひと、特に赤ちゃんもそうですが、動物たちも生まれたときから自分のいろいろな意思を鳴き声にしてあらわし、伝えます。お互いの情報も鳴き声で伝達しています。天王寺動物園の情報がこの“なきごえ”に託して皆様にお知らせできればの願いを込めて命名されたそうです。

そこで、現在の天王寺動物園の情報ですが、老朽化した動物舎の建て替えに際し、生態的展示(動物の生息環境を展示のなかに再現する方法)を取り入れた将来計画“ZOO21計画”を進め爬虫類生態館「アイファー」、水中遊泳の「カバ舎」、本年10月17日に一般公開しました「サイ舎」を建設してきました。また、近々「アフリカサバンナ区草食動物ゾーン」の建設に取りかかります。

動物園はこれまで市民のレクリエーションの場として、また、子供たちの情操教育の場、さらに高齢者の方々に安らぎを与える場として広く利用されてきました。昨今、環境破壊が叫ばれているなかで、今後、天王寺動物園は展示による環境教育への貢献、良好な飼育管理による種の保存に貢献してまいります。

このような動物園での行事や出来事を毎月“なきごえ”に掲載し、活字で残しておきますと、まさに動物園の歩みとなり、特に、写真等は後世の貴重な資料として活用され、役立つと思われます“継続は力なり”関係者の不断の努力は誠に大変ですが、より一層のご奮闘をお願い申し上げます

購読者数の増加を心から祈念するとともに“なきごえ”の益々の飛躍を期待してやみません。

Magazine of 700 動物園の雑誌の役割について

まさあき
東京動物園協会 伊藤 政顕

400号おめでとう

毎月送られてくる各地の動物園雑誌の中でも、大阪市天王寺動物園の『なきごえ』は、特に楽しい雑誌です。表紙には毎号天王寺動物園の動物が登場していますし、表紙裏の「New Face」には、最近生まれた赤ちゃんや新着動物が紹介されています。また、真ん中のページ「グラフZOO」には、動物園の催し物や動物たちのカラー写真が掲載されています。松葉健氏の「ケンちゃんの好きやねん動物園」というまんがも年2回、掲載されています。

先日この『なきごえ』が、12月に400号になるというお電話をいただいて、たいへん嬉しく思いました。

『なきごえ』は、月刊雑誌として発行されていますが、定期刊行物を発行することは、容易なことではありません。まず、企画から始まって、原稿の依頼、原稿の受け取り、割り付け、校正など一連の編集作業を毎月続けられているわけで、

これはたいへんなことです。特に『なきごえ』は、動物園に勤務されている方々が直接、制作している雑誌であることも忘れてはなりません。

長い間、『なきごえ』の発行を続けてこられた大阪市天王寺動物園協会、編集を担当されている方々、執筆者、大勢の読者、そしてこの雑誌を育ててこられた皆さんに心からお祝いの言葉を贈りたいと思います。

ところで、『なきごえ』の編集部からの電話は、400号を機会に、動物園の雑誌の役割について書いてほしいという原稿の依頼でもありました。

私たちの東京動物園協会では、『どうぶつと動物園』という雑誌を発行しています。それで、雑誌の役割について書いてほしいということでした。しかしこれはたいへん難しい問題で、簡単に言い表せることではありません。特にまとまった考えがあるわけではありませんが、私がつねづね考えていることを、書いてみたいと思います。

動物園と動物園愛好者との橋渡しを

『どうぶつと動物園』は、現在、動物愛好会の機関誌として月刊で発行されていますが、この雑誌の前身『動物園しんぶん』は、1949年7月15日に第1号が発行されています。この時に当時の古賀上野動物園園長が、「発刊のこぼ」を書いていましたので、その初め部分を紹介しましょう。

動物園では、毎日色々なことがあります。しかしそれは入園者の皆さんには分からないことが多いのです。そしてこれらの事のうちには、是非皆さんに知っていただきたい事も沢山あります。それから、近頃は、社会科の勉強で、動物園の事務所を訪ねて来られる皆さんのお友だちも、段々増えて来ました。
(中略)
今度、東京動物園協会から『動物園しんぶん』を発行することになりました。このしんぶんは、私が上にお話したようなことについて、皆さんと動物園との間の橋渡しをする役目は果たすことが出来るものと、私は大変喜んでおります。



『どうぶつえんしんぶん』と『どうぶつと動物園』の表紙の変遷

この「発刊のこぼ」の中に述べられているように役割の第一は、まず、動物園ファンに動物園のことをよりよく知っていただくということでしょう。動物園は楽しい所ですが、動物園についての知識が増えれば、また、楽しみも増すはず。多くの動物園は、動物愛好会、動物園友の会などを組織しており、その機関誌として発行されています。ですから、第一の役割は、このような組織の会員の方々への情報の提供です。

また、動物園は社会的な施設ですから、その施設が発行している雑誌として、動物園の広報誌としての役割も持っていると思います。

新しい施設が出来たり、外国から動物が贈られてきたり、また、動物園で動物の子どもが生まれたりすれば、大きなニュースであり、マスコミを通じて、より多くの人々にお知らせするという事も、大事な役割の一つだと思います。

読者の中には、動物園の職員も大きなウエイトを占めていますので、飼育技術の向上に役立つような情報も忘れてはならないものです。

動物園の雑誌には、その動物園で飼育している動物の飼育に関する記事が掲載されていますが、このような記事は一般の読者にとっても、大変興味のあるものであると同時に、飼育の担当者にとっては、仕事に直接関係する貴重なデータが含まれているからです。

もう一つは、園の記録のためという役割もあります。『なきごえ』は今度400号になるわけですが、いままで発行されたものは、書庫に保存されていますが、動物園で生まれた動物、新しく来た動物、新たに建設された施設などが、いつど

のような形でできたのか、などを知りたい場合、バックナンバーを見ればすぐ調べることができます。

もちろん、動物には記録用の個体カードがありますし、施設には工事関係の正式の記録がありますが、手軽に調べるには、雑誌のバックナンバーが最も便利です。

動物園の役割と雑誌の役割

現在の動物園は、ただ動物を展示するだけの施設ではなく、ご存じのとおり、レクリエーション、教育、研究、自然保護などの目的を持った施設になっています。ですから、動物園で発行される雑誌もこの線に沿ったものでなければならぬでしょう。

動物園の雑誌の役割は何かというのは、難しい問題ですが、動物園の目的に沿ったもので、さらにこれに読む楽しみという要素がプラスされれば大変よい雑誌になるだろうと思います。

動物園は大変楽しい所です。そして、その楽しさをより多くの人々に知ってもらうのが一番の役割だと思っております。水中のカバが時々、鼻を水面にちょっと出して息をしたり、フラミンゴが1本足で立っていたりするのをゆっくり見ると心がなごみます。

そんな楽しさが、雑誌から伝わってきたいなと思うのです。大変、まとまりのない、不十分なものになってしまいましたが、これを機会に動物園の雑誌について、より多くの方が発言されるようになれば幸いです。



『どうぶつと動物園』の前身『どうぶつえんしんぶん』の第1号(1949年7月15日発行)

本誌「なきごえ」は、本号を以て創刊400号をむかえました。

発刊は昭和40年4月、以来、33年の歳月が経ちました。

「事業は継続にあり」とか、この長い間、支えていただいた愛読者のみなさんと、関係者各位の並々ならぬ努力の賜と深く感謝致しております。

昭和40年といえば、その前年に、東京オリンピックが開かれ、東海道新幹線が突走り、日本国中挙げて復興の植音つばねが勇ましく聞こえた年でした。

そしてこの年、天王寺動物園も大正4年1月1日に開園して以来、ちょうど50周年を迎えた記念すべき年でありました。

実は、日本の動物園のトップをきって、戦後初めて昭和36年から5か年計画で園内の大改造が行われていました。狭いオリ式から広くて見やすい放飼式に変わりつつありました。クマの放飼場を始め、キリン放飼場、フラミンゴ放飼場、トラ、ライオン放飼場等など、毎年、古い動物舎を取壊し、新しい動物舎が続々、誕生していました。

また、いろいろな記念行事や催し物が行われ、長年の夢であった天王寺公園グラウンドも動物園に取り入れられ、面積も開園当初の4倍になり、園内も人、人、人でいっぱい、我々職員も誇りに包まれたものです。

天王寺公園グラウンド跡は、今の「かもしか園」に新しく生まれ変わりました。

円周約200m、面積約4,000m²、高さ2.5m、幅5mの観覧通路の上から下を見下ろす廻遊型式になっています。いろいろな種類のカモシカの混合飼育をするため、動物間の闘争や脱柵防止と何よりも観覧者への安全性を考えて、運動場に水路や池を配置し、上から見下ろす型式にしたのです。使用された土壌の土は、当時の地下鉄工事の残土が利用されています。規模、様式とも他に例がなく、さすがは天王寺動物園と他園からうらやましがられたものです。

そして、開園50周年を記念して、大阪市天王寺動物園協力会（今の協会の前身）がうぶ声をあげ、広報誌を発行しようということになりました。当時、日本の動物園で月刊誌を発行していたのは、東京動物園協会の発行する「どうぶつと動物園」ただ一誌だけで、それに続く発刊でした。

誌名は、職員間の公募に決め、多数応募の中から「なきごえ」が選ばれました。

物いわぬ動物たちは、鳴き声を通してその喜怒哀楽を表します。市民のみなさんに一人でも多く、動物たちの声を誌面を通じて伝えたい。いわば「獣声人語」の役割を果たすのが本誌の使命ということで『なきごえ』に決まりました。

企画・編集・取材・校正と素人の飼育職員たちの手によって作業は連日続きました。写真のページと3企画に分かれ、それぞれ分担しました。私は、「ペットを訪ねて」の稿を担当することになりました。

当時、ペットの飼育が市民の間でたいへん盛んな頃で、いろいろな珍しいペットたちが飼われていました。

チンパンジーを始め、ロバ、ウサギ、リス、キジ類、水鳥、ツル、インコ、果ては爬（は）虫類などです。

取材は、多忙な日常業務を終えてから、帰りはいつも深更しんこうに及ぶ有様でした。

あるとき、京阪沿線のヘビの愛好家を訪ねた時のことです。

居間の6畳間は熱帯魚用の水槽が所狭しとズラリと並んでいます。

中をのぞくと、生息地の環境に合わせて、土、砂、水、草地、岩とケージごとに作られています。

ピンセットでエサのキンギョをさみ「ミーちゃん、ミーちゃん」と、飼い主が呼ぶと、驚いたことに眠っていた「ミーちゃん」がニョロニョロと這い出してくるではありませんか。その上、「お口をアーン」の声に合わせて当のミーちゃん、大きな口を開けてバクリと食べるのです。

大体、爬虫類は人に仲々馴れず、まして人の言うことを理解する能力に欠けた動物です。ビックリするやら感心するわで、今でも鮮やかに憶えています。

動物の飼育とはまた、ひと味違った深くてキメ細かい愛情が感じられ、愛好家たちの姿に深い感銘を受けたものです。

発行部数も1200部から2000部に増え、7ページだった頁数も11ページと4ページ増え、表紙も昭和57年4月号からカラー化しました。当時は財政難の折りでしたが時代の流れを先取りせんと、清水の舞台からとび下りる気持ちで実施にふみ切ったことを憶えています。

今日本の動物園雑誌を代表する月刊誌に育ってきていることは大変喜ばしい限りです。

今後、動物園は市民のオアシスとして、また、アニマルバンクとしての役割を果たしながら『なきごえ』も情報化時代の21世紀にふさわしい態勢を整え、市民のみなさんへの架け橋になるよう、心から祈っています。

みなさんの —創刊当時の思い出— 架け橋として

元大阪市天王寺動物園長 中川 道朗



工事が相次ぐ園内 (1965年/S40 5月)



国内の動物園・水族館・昆虫館が

今回は「なきごえ」400号特集として、天王寺動物園以外の動物園や水族館、それに昆虫館が発行している雑誌をご紹介します。

発行元は動物園や水族館自体だったり、外郭団体・愛好会・友の会とまちまちですし、年間発行数も1~12回とそれぞれです。ほとんどの雑誌が動物園や水族館等の関係施設や地元の幼稚園、小中学校、図書館に配付されています。中には個人購読が可能な雑誌もありますので、興味のある方は発行園館にお問い合わせ下さい。今回、ざっと調べただけで35園館から36の雑誌が発行されていました。手作り風だったり、カラー刷りをふんだんに取り入れたり、各園館の個性あふれる雑誌になっています。

実際に調べてみて、興味を引かれたのが雑誌のネーミングです。ZOO何とか、だより、ニュースがよく使われていますが、中には面白いネーミングのものもあります。私の好みも含めていくつか紹介すると、まず旭川市旭山動物園の「モユク・カムイ」です。モユク・カムイとはアイヌ語でエゾタヌキのことらしく、なんと北海道らしいネーミングだと思いませんか。富山市ファミリーパークの「グルーミング」はサル類の仲間同士が行う毛づくろい行動を雑誌名にしています。豊橋総合動植物公園の「のんほいだより」ののんほいはその土地の方言で「あのね」というような呼びかけの言葉で、その地域ののどかな雰囲気伝わってきます。姫路市立水族館の「や

発行している雑誌

飼育課 竹田 正人

まのうえのさかなたち」はその水族館の立地条件を表しています。この他、平仮名4文字の雑誌名もよく見かけます。当園の「なきごえ」もその中の1つですが、「はばたき」や「あしおと」、「すづくり」などは端的に動物を感じさせるネーミングだと思います。

表紙に凝っている雑誌もあります。多くの雑誌が表紙に動物の写真を使っていますが、常に手描きの絵を使っているものもあります。中には、園館の絵画コンクールの作品を採用している雑誌もありました。

内容は当然動物に関する記事が主ですが、動物に関心のある様々なジャンルの人達にコラムを書いてもらったり、研究者に研究の成果を掲載してもらったりしている雑誌もあります。自作自演で施設紹介や動物紹介、飼育担当者の人物紹介、研究成果を載せているものもあります。

また、クイズや読者からの質問コーナーを設けている雑誌や特集を組んだ雑誌もあり、編集側の二捻りの苦勞が感じられます。当園でも経験していますが、原稿を書いたり、写真を撮ったりするのは結構大変な作業です。さらに、原稿を誰かに依頼するにはこの誰かを決めなければなりませんし、送られてきた原稿をチェックし、ページ数に合わせるため執筆者との調整をするなどの編集作業にも多くの時間が必要です。様々な苦勞と努力の末、1冊の雑誌ができるのです。

400号特集ということで、他の園館が発行している雑誌を簡単に紹介しました。今後もこれら他園館発行の雑誌を参考にして、さらに面白い、そして多くの人に動物や動物園のことを理解してもらえる「なきごえ」を作り、500号いや1000号、2000号と発行していきたいと思えます。



▶水族館の雑誌にはユニークな名前が多い。

▲動物園の雑誌にわりと多い、ひらがな4文字のネーミング。

▶北海道らしいネーミングの旭山動物園の雑誌と、さすがに完成度の高いどうぶつと動物園(東京動物園協会)。

国内の動物園・水族館等 発行雑誌一覧

雑誌名	発行園館名	年間発行数	雑誌名	発行園館名	年間発行数
ざっぼろ円山動物園だより	札幌市円山動物園	3	はばたき	神戸市立王子動物園	2
モユク・カムイ	旭川市旭山動物園	4	すづくり	広島市安佐動物公園	4
ふれあい	釧路市動物園	4	とべZOO	愛媛動物友の会	5
コミュニケーション(ミニ)	秋田市大森山動物園	4	ZOOファミリーのいち	高知県立のいち動物公園	4
ZOOもりおか	盛岡市動物公園公社	1	動植物園だより	福岡市動植物園	3
どうぶつと動物園	東京動物園協会	12	動物の森だより	海の中道海浜公園動物の森	6
どうぶつこうえんニュース	千葉市動物公園	4	動植物園だより	熊本市動植物園	4
動植物園ニュース	市川市動植物園	4	あしおと	フェニックス自然動物園	4
ZOOよこはま	横浜市動物園友の会	2	AQLOG	新潟市水族館マリニア日本海	4
ZOOよこはまニュース	横浜市動物園友の会	6	さかまた	鶴川シーワールド	2
グルーミング	富山市ファミリーパーク	2	シティアクアリウム	サンシャイン国際水族館	2
ZOOしずおか	静岡県立日本平動物園	2	海のおこちょう	下田海中水族館	2
のんほいだより	豊橋総合動植物公園	2	海のはくぶつかん	東海大学海洋科学博物館	6
東山動物園友の会	名古屋東山動物園	4	さかなかな	名古屋港水族館	4
モンキー	(財)日本モンキーセンター	6	マリンバビリオン	串本海中公園センター	12
動物園だより	京都市動物園	4	うみんど(湖人)	滋賀県立琵琶湖博物館	4
サファリとマリン	アドベンチャーワールド	2	やまのうえのさかなたち	姫路市立水族館	2
なきごえ	大阪市天王寺動物園	12	GONTA	榎原市昆虫館	4

(注) 実際の発行元は発行園館名と異なる場合があります。また、チェック漏れがあると思いますので、これ以上の数の雑誌が発行されていると思います。もし、お気づきの方は天王寺動物園までご連絡下さい。

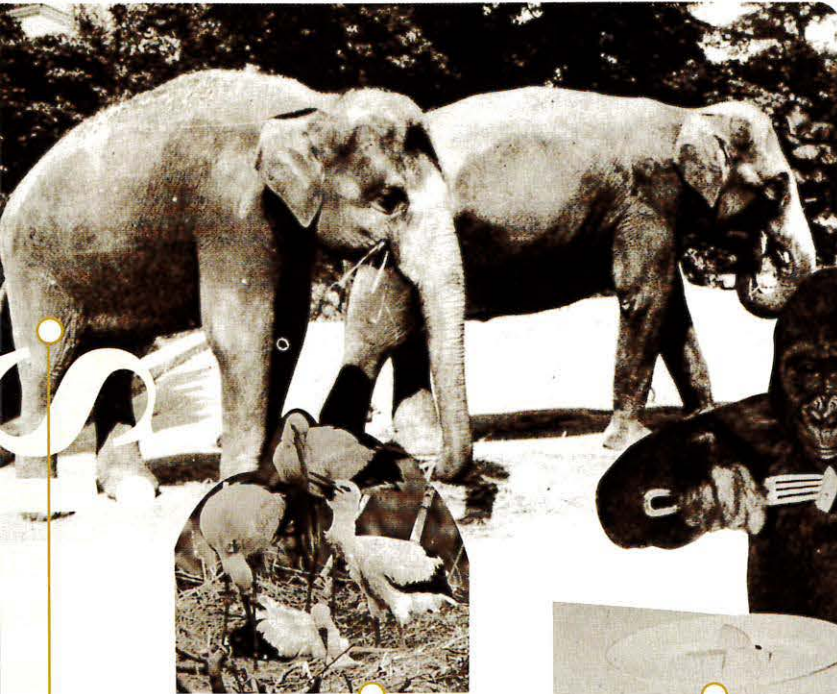
なきごえ

GRAPH ZOO

思い出の動物たち

1965年4月創刊以来
グラフを飾った動物たちに
再び登場してもらいました。
なつかしい写真や
貴重な写真でいっぱいです。

飼育課 大野 尊信



アジアゾウ 2頭

30年前の若々しいユリ子と春子の姿です。これからもずっと元気で長生きしてほしい。

創刊号 1965年4月1日



ヨーロッパクオノトリ

【シュバシコウ】(ふ化50日目)担当者が10m近いフェンスの上に登って写した貴重な記録です。

1965年7月号



Lunch Time

ゴリラのゴロちゃん

現在は千葉の動物園で元気に暮らしています。お父さんになれる日がくればいいのですが。

1967年2月号

ツシマヤマネコ

長崎県対馬に生息するマネコです。研究用に捕獲された個体を飼育していました。

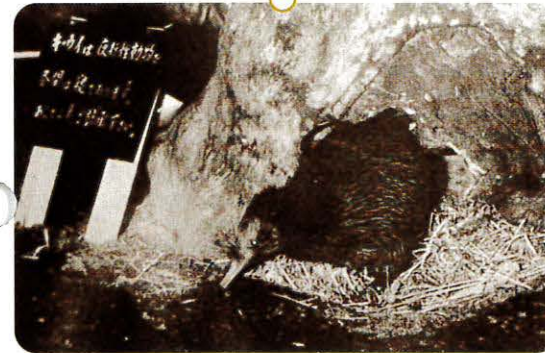
1967年2月号

マークは、現在いない動物たちです。

1970年6月号

仔ゾウ 入園

千里の万国博では多くの国から動物が贈られました。インド政府からは仔ゾウが贈呈されました。ラニー博子です。今では先輩の2頭と区別がつかないほど大きくなりました。



1971年7月号

キーウィ

キーウィも万国博の時、ニュージーランドから贈られたものです。まだ夜行性動物舎ができていなかったため、入園者も、その姿をあまり見る機会がなく幻の鳥でした。

1972年4月号

クロサイの赤ちゃん

(2月1日生まれ)天王寺動物園で初めての出産でした。今年完成した新しいサイ舎でもこんな姿が見られるようになるでしょう。



“サイタ”早くついてきなさい。

1974年9月号

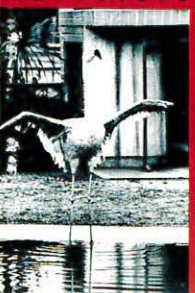
チュウゴクオオカミ

日中国交正常化を記念して上海と北京両動物園とで動物交換が行われました。写真は上海市から贈られてきたチュウゴクオオカミです。



なきごえ

創刊号



4 1965

当初は全8頁(現在は毎月11頁)。200号から表紙がカラー化、300号から中面見開きページの「動物園グラフ」もカラーとなり現在に至っています。400号である今号は増ページして全15頁になっていますが、通常は11頁で毎月発行しています。

なきごえは、天王寺動物園が開園50周年にあたる1965年(昭和40年)4月1日に創刊されました。

昭和40年という、当園では、近代化を目指して昭和36年から動物園改造9カ年計画に着手し、昭和39年には「大阪市立動物園」から「大阪市天王寺動物園」に改称。50周年の昭和40年には、オオカミのアパート、アーチ型テナガザル舎、カモシカ園などの施設も新設され、開園50周年の記念祭を実施、大阪市内唯一の娯楽施設として、たくさんの入園者で賑わいました。



天王寺動物園の開園50周年を祝い、盛り上がる新世界界わい。

昭和40年どうぶつえん DATA

- 入園者: 1,633,433人
- 入園料: 大人60円 (4月1日から値上げ)、小人20円
- 休園日: 年中無休 (12月30日、31日のみ休園)
- チンパンジーの演技: 平日2回、日祭日3回

なきごえ



10 11 1975

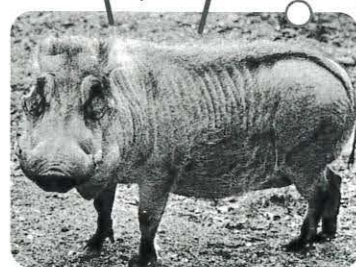
1975年は、開園60周年を迎えた年です。10月号と11月号が合併号となり、60周年記念特集号を企画しました。この表紙を飾ったのは10歳になったゴリラの“ゴロ”。体重も150kgと立派になっていました。

1976年6月号

コヨーテの赤ちゃん

74年にサンディエゴ動物園から入園してきたコヨーテが3月23日に出産をしました。

そんなに見つめないで！
私ごとくごつてこんなに魅力的なかしら!!



1979年4月号

花婿募集 イボイノシシ

国内で一頭になってしまったイボイノシシです。TVなどではおなじみの動物ですが、動物園では防疫上飼育しているところはありません。



1986年6月号

オランウータン 誕生

(4月27日)

サブは立派に成長しました。まだパパにはなっていません。



“コユキ”早く上がってらっしゃい!!

1988年5月号

本州初の
ホッキョクグマの赤ちゃん

87年11月16日に生まれたコユキ。愛らしい仔グマの姿は忘れることはできません。



年をとると、ひなたぼっこが何よりの楽しみじゃ極楽、極楽!

血統登録されている動物

シシオザル

世界中の動物園が協力し合って希少種になってしまった動物の繁殖に努力しています。

1990年12月号

婿入り

コアラの康ちゃん

血液更新のため、当園と同種のビクトリアコアラを飼育している淡路ファームパークから入園しました。

1994年8月号

アメリカへお嫁入り
クロサイのサトミ

94年4月に、父トミーと、母サッチャンの間に誕生したサトミは、絶滅寸前のクロサイ繁殖計画のため、アメリカのカールドウェル動物園への縁談が決定、この年の10月7日に当園からお嫁に行きました。

1996年11月号

我ら仲間たち
チンパンジー

国内最高齢飼育更新中のシュジー(メス49歳)も、時々運動場で仲間入りしています。幸せな動物園暮らしだと言えるでしょう。

1998年5月号



当時、日本で飼育されていたイボイノシシは、この表紙のメス1頭(1968年来園)のみでした。その後4年間この顔で愛さようをふりまいていました。



1981年には「ただいま352世帯アニマル一家」と題して、別冊を発行しました。これは、1980年に関西新聞に2ヵ月間にわたり同題名で連載された飼育取材記事をメインにまとめたものです。



下の表紙写真には、バーバリシープの群が写っています。本種は当園に1965年からお見え、彼らが身軽に走り回る急斜面の岩場は、その4年後にできあがったものです。



COVER WATCHING

なきごえの混声合唱で400号記念、楽しいハーモニー。



作者紹介 まつばけん 松葉 健さん

1931年、大阪生まれ。戦後、月刊「漫画少年」に応募し一入選。夕刊紙、国際新聞に四コマ漫画連載。その後、新聞(朝日、読売、日経など)、雑誌(文春漫画読本、上方芸能、大阪人など)にコマ漫画を主に描く。1977年、「大阪あの町、あの人、あの遊び展」を成瀬 国晴、和多田 勝、松葉 健で開催。関西在住の漫画家活動に参加しつつ企業PR誌にルボ漫画を発表。朝日カルチャーセンター講師も経験。1995年「大阪めぐり百景」松葉 健、和多田 勝 共著を(財)大阪都市協会から出版。暖かみのある作風と、そこに描かれている人々の優しい表情、季節感などが特徴で、幅広い層から人気を得ている。

ケンちゃんの好きなん動物園 まんが松葉 健



わーい!!
なまごえ誌が
12月号で400号に
なった
33年もつづいて
いるなんて
すごいな

そこで天王寺動物園で発行している本誌「なまごえ」の編集会議の様子を見にいきました。10名の方が来年度の企画を相談しているところでした。みんな動物園で働いている人ばかりです。しかし誌面づくりなどみんな700名ではありませんが、記事の中身は体験が生きていると思います。

動物園の人たちはカメラの名人が多い。作業の間にも記録と資料のために写しておくのでいい写真が保存されていると思います。



当番の編集長もたいへんです。記事が集まるまで気が休まりません

なれない原稿をたのまれた人は動物と付き合うより気疲れするとか...?



早く書いてよ締切り日が多いよ



編集長

印刷所の人と打ち合わせ

巻頭の「動物と私」のような園外の原稿も全部そろって印刷所へ(校正をする)そして本誌ができてくるといよいよ1冊ずつ封筒に入れて発送する...となかなか忙しいです。

ケンちゃんも「なまごえ」にはちょいちょい顔をだしていたか



ハイおじゃましました

新しい動物舎が次々に完成して動物たちが快適に生きていけるのがとてもうれしいです



天王寺動物園にはライオンから亀まで合計すると約1500匹以上いるそうです



その動物家族を守る職員(獣医、飼育、管理、事務など)が100名以上。園内には木立木や植物が多くその管理など、動物の誕生や死、それに行事や催しなど園内の日常はホクホクの知らないニュースがいっぱいあります。これからも動物園内の話題はつきることはないでしょう

10月5日 エリマキキツネザルとフサオマキザル各1頭とイシカワガエル4頭、リュウキュウアカガエル4頭が長崎鼻パーキングガーデンから贈られてきました。検疫終了後、サル類はサル・ヒビ舎で、カエル類は爬虫類生態館「アイファー」で展示する予定です。



10月7日 クロサイのオス「トミー」を新サイ舎で試験的展示しました。神経質な行動も時々見られましたが、事故なく展示収容できました。数回の訓練の後、一般公開する予定です。



アカカンガルーのメス同士を神戸市立王子動物園と交換しました。検疫終了後、群れと同居させる予定です。

10/15. ライオンが4頭生まれました。

10/17. 新サイ舎の一般公開を始めました。

10月18日 世界の動物園や水族館の園館長約30名が見学されました。一行は日本で開催されるのは2回目の世界園館長会議に参加されたメンバーで、国内園館視察の一環として来園されたものです。



10/19. 全国のゾウ飼育担当者が集う「全国ゾウ会議」が天王寺動物園で開催されました。

カワセミ2羽が豊橋総合動植物公園から贈られてきました。

10/20. フンボルトペンギンがNo.6の巣箱で今季1卵目を産卵しました。

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



10/21. キビタキを1羽保護しました。

10月23日 アカオネツタイチョウとヤマシ

ギ各1羽を保護しました。アカオネツタイチョウは硫黄島近辺に生息していますが、台風の影響で本州まで流されてきたようです。



10/24. ブタオザルが1頭生まれました。

10/25. 今月21日に保護したキビタキが元気になったので、自然復帰させました。

10/26. エジプトガン2羽が熊本市動植物園から贈られてきました。

気温が低くなってきたので、夏の間冷房室で展示していたオオサマ、イワトビ、マカロニペンギンを屋外展示場に移動させました。

10/30. クイナ、シロハラ、ゴイサギを各1羽保護しました。

● 所長のお話・お正月映画大会
日時 1月2日(日) 午後1時00分～
場所 動物園内レクチャールーム

● もちつき大会
日時 1月3日(日) 午後1時00分～
場所 動物園内救護室横

● お年玉プレゼント
日時 1月2日(日)・3日(日)
場所 天王寺公園・動物園
* 公園・動物園合わせて
両日とも先着500名



お知らせ

❶ 平成11年1月1日より大阪市内06地域の電話番号変更にもない下記ようになります。
天王寺動植物園事務所 TEL: 06-6771-8401
天王寺動物園協会 TEL: 06-6771-0201

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？ 動物園での世話の仕方は？ 仲間はず？ など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



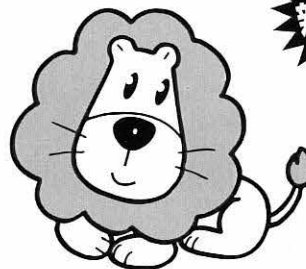
マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856
(株)増田食品 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06)865-0165

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも連動、見たままのフレームでパチリ。

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ◎新刊

3,500円+税 ◎限定1000部

狼と犬と猫の生態を研究し、動物文学をはじめて世に紹介した平岩米吉の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を娘の眼から深く描く。

夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわせ、動物画家・大崎善司、日本好きのスタール博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
◎2刷出来 2,500円+税

犬の生態
◎6刷 2,000円+税

犬の行動と心理

◎4刷 2,000円+税

私の犬

2,200円+税

猫の歴史と奇話

2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ◎限定300部(分売不可)

南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (送料一律400円) ◎ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address=JDH07647@niftyserve.or.jp

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本
入園の記念・手引に……

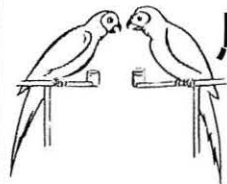


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



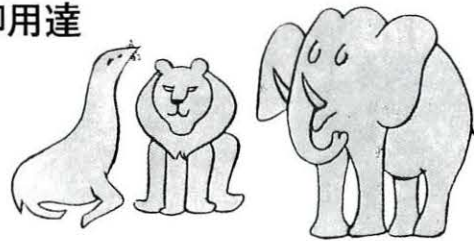
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. <コカ・コーラ指定会社>
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

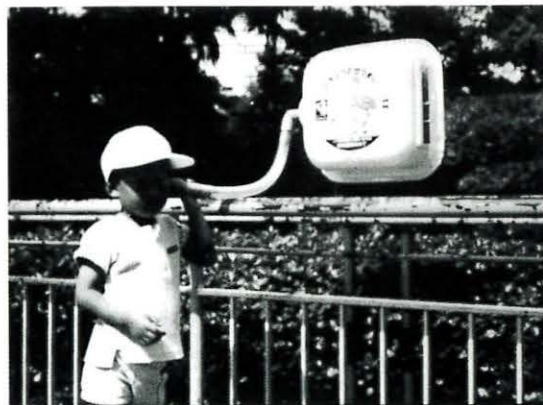


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 30円

なきごえ

1998年 目次

通巻389~400号 第34巻

Vol. 400th Anniv.
なきごえ400号付録
1~12は発行月

表紙

1	アムールトラ	大野 尊信	7	フンボルトペンギン	中上 正幸
2	ライオン	萩原 祐二	8	ボアコンストリクター	萩原 裕二
3	アカハシウシツツキ	中川 哲男	9	ヒョウモンガメ	油家 謙二
4	アネハヅル	榊原 安昭	10	アジアゾウ	坂本 全
5	チンパンジー	大野 尊信	11	ワライカワセミ	高見 一利
6	ブケコ	高橋 雅之	12	なきごえの混声合唱で 400号記念、楽しいハーモニー	松葉 健

動物と私

1	メカムシ	白石 卓也	7	ボクらはみんないきている	増田 美樹
2	子どもたちに伝えたい「ミナミ」の死	池田 政美	8	ネズミとブート	東野 健一
3	ラムちゃん日記	松岡 さわこ	9		李 辛
4		大久保典子	10	絵のなかの動物たち	鈴木 幸人
5	タヌキに化かされて	岡 秀郎	11	みつめる	三岡 康明
6	我が友 迷犬ミル公	畚野 剛			

New Face

1	カンムリシロムク	萩原 祐二	7	ニホンジカ	中上 正幸
2	ハゴロモヅル	市川 久雄	8	ナベヅル	森本 委利
3	アカカンガルー	市川 久雄	9	アミメキリン	油家 謙二
4	フクロモモンガ	佐藤 紀子	10	アカダイショウ	坂本 全
5	カリフォルニアアシカ	大野 尊信	11	スナドリネコ	高見 一利
6	インドニシキヘビ	萩原 祐二	12	アカカンガルー	坂本 全

グラフZOO

1	新キジ舎完成	市川 久雄	7	新カバ舎の1日	西村 慶太
2	どの子が私の赤ちゃん? ヘビの親子当てクイズ	西村 慶太	8	'98赤ちゃん特集	野口 秀高
3	天王寺動物園の赤ちゃん	佐藤 紀子	9	第24回サマースクール	長澤 英資
4	どうぶつえんのイベントカレンダー	中上 正幸	10	引越し大作戦 クロサイ夫婦、新しいサイ舎へ	満 勇二
5	チンパンジー我ら仲間たち	大野 尊信	11	新サイ舎の完成	中川 哲男
6	動物園で働くひとたちの作品展から	森本 委利	12	思い出の動物たち	大野 尊信

特別寄稿

- | | | | |
|--------------------|-------|-----------------------|----------|
| 1 トラその現状 | 安田 伸二 | 8 THE LAST 5000トラを救え! | 堀 純一 |
| 2 マゼランペンギン・恋の季節 | 鎌倉 文也 | 9 保護の現場で:コンゴが抱える苦悩 | バサボセ・カニユ |
| 3 身近な野生動物・コウモリ | 井内 岳志 | 10 アカウミガメ 北限域の繁殖地で | 成瀬 裕昭 |
| 4 博物館の新しい試み | 瀬川也寸子 | 11 クロサイの将来と動物園 | 大津 晴男 |
| 5 野生動物との共存をめざして | 川手 隆生 | 12 動物園の雑誌の役割について | 伊藤 政顕 |
| 6 奈良公園 シカ発信 | 藤田 和 | 12 みなさんの架け橋として | 中川 道朗 |
| 7 生きている化石ヤマメの不思議と今 | 湊 秋作 | | |

キーパーズアイ・動物なんでも相談・獣医室から・公園花だより

- | | | |
|--------------------|--|------------|
| キーパーズアイ | 4 仲間はずれのヤギ・個性のあるうんこ | 油家 謙二 |
| | 9 動物に漢方 | 油家 謙二・早川 篤 |
| 動物なんでも相談 | 5 ・どうしてコアラはいつも眠っているのですか?
・コアラはユーカリしか食 べないのですか? | 早川 篤 |
| | 10 ・8月にキジバトのヒナを見つけました。普通、鳥の繁殖期は春ではないのでしょうか?
・カモ類のオスは夏には羽の色がメスと同じ色になりますがなぜですか? | 榊原 安昭 |
| ケンちゃんの
好きやねん動物園 | 2 大阪動物園ボランティアーズ | 松葉 健 |
| | 7 ツル舎を訪ねて | 松葉 健 |
| | 12 “なきごえ”編集委員会 | 松葉 健 |
| 獣医室から | 3 No.71 虫について思うこと | 高見 一利 |
| | 8 No.72 灸すれば通す | 高橋 雅之 |
| 公園・花だより | 1 No.20 冬の花 | 山元 貞幸 |
| | 6 No.21 新温室 | 山元 貞幸 |
| | 11 No.22 植物温室 | 山元 貞幸 |

紀行・記録・その他

- | | | | |
|-------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| 1 寅(トラ)と虎(トラ) | 古戎 三男 | 8 サル・ヒヒ舎の近況 | 野口 秀高 |
| 2 新カバ舎になって | 中山 宏幸 | 9 ヒョウモンガメの繁殖 | 西村 慶太 |
| 3 アメリカの動物園見て歩き② | 榊原 安昭 | 10 ペンギンと出会うー新人飼育係奮闘記ー | 松下 俊之 |
| 4 動物飼育34年をふり返ってー退職にあたりー | 正木 時雄 | 11 新しいサイ舎の完成 | 中川 哲男 |
| 5 チンパンジーの群れづくり | 竹田 正人 | 12 “なきごえ”創刊400号に寄せて | 井坂 進 |
| 6 「キーウイ飼育管理研究会」に出席して | 森本 委利 | 12 国内の動物園・水族館・昆虫館
が発行している雑誌 | 竹田 正人 |
| 7 天王寺動物園将来構想Z0021計画 | 中川 哲男 | | |

ZOO DIARY お知らせ

竹田正人・坂本 全・佐藤紀子
中上 正幸・長谷川貞雄

動物園内での
お食事、
ご休憩は

動物園内……………
中央売店
TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



LOTTE……………

みんな大好き

コアラのマーチ

〈チョコレート〉

〈ストロベリー〉

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg（成人1日あたりの所要量）までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印 毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格（税別）



一日
愉快地に
たのしめる

◎園内3ヶ所（南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下）に各種のりものがあります。



久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1998年12月10日発行（毎月10日発行）第34巻 第12号（通巻400号）

編集 / 大阪市天王寺区動植物公園事務所
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中山良三郎
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1
振替口座 00930-2-37823

編集委員 [井坂 進/中尾啓一/石井 等/中川哲男/藤田四郎/長谷川敏昭/長澤英資/山崎道正/楠原安昭/森本委利/高橋雅之/市川久雄/中上正幸/萩原祐二/満 勇二/坂本 全/竹田正人/高見一利/山元貞幸/大野尊信/野口秀高/早川 篤/村上勇一/西村慶太/油家謙二]